

関係者各位

日本老年学的評価研究（JAGES：Japan Gerontological Evaluation Study）の研究成果についてのプレス発表を下記の通り開催いたしますので、お知らせいたします。（JAGESの概要につきましてはホームページ https://www.jages.net/about_jages/ をご覧ください）

なお今回のプレス発表会につきましても前回と同様「Zoom」を用いてのweb開催とさせて頂き、当日の参加方法等に関しましては、お申し込み後に詳細をご案内いたします。何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

記

1. 開催日時 2021年4月16日（金） 10:00～12:00（予定）
2. 場所 「Zoom」（オンラインミーティングアプリ）を用いてのweb開催となります
3. 内容

- ①口腔機能低下、歯の喪失がみられた高齢者で主観的認知機能低下のリスクが約3%～9%高い—6年間の縦断調査より—
- ②なぜ歯を失うと抑うつになりやすいのか？メカニズムを解明
▶うまく話せない・笑えない・咀嚼できないから抑うつになりやすい
- ③多趣味な高齢者は死亡リスクが低い 趣味2個で10%、5個で31%のリスク軽減効果
～特に効果的なのは「身体を動かす趣味」と「誰かと一緒に行く趣味」～
- ④要介護状態の「改善」にも社会経済的な格差がある可能性
～教育歴の短い人と比べて長い人では2倍改善しやすい～
- ⑤要介護状態の「改善」にも地域内格差のある可能性
～地域のソーシャル・キャピタルは特定の人に効果がみこめないかも？～
- ⑥ソーシャルキャピタルが低い人でのみ子どもの頃の逆境体験が多いと認知症リスク3倍
～ソーシャルキャピタルがあれば子ども期の逆境体験による認知症リスクなし～
- ⑦日本における認知症リスク要因を世界認知症審議会でも報告
～個人・社会環境でどのような要因があるのか？～
- ⑧日英の比較研究で、日本の高齢者の孤立が浮き彫りに 孤立者 英国1.3%対日本8.7%
孤立による早期死亡者数試算 英国2千人対日本1万9千人
- ⑨社会的孤立は抑うつ発生のリスク 日本では子どもとの交流が乏しいと1.09倍、
社会参加がないと1.28倍 ～日本と英国の高齢者の大規模データから検証～
- ⑩緑地が多い地域に暮らす高齢者はうつが10%少ない
- ⑪小学校から離れた場所に住む女性高齢者は、1.07倍うつが多い

※⑩のプレスリリースにつきましては発表当日までにご案内いたします。

またタイトルが変更になる可能性もございますのでご了承くださいませ。

4. 発表者 (発表順)	代表 近藤 克則	千葉大学 予防医学センター 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 老年学・評価研究部	教授 部長
	木内 桜	東北大学歯学研究科	博士課程
	相田 潤	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野 東北大学 大学院歯学研究科 歯学イノベーションリエゾンセンター 地域展開部門	教授 教授
	小林 崇希	東京医科歯科大学 国際健康推進医学分野	医学部生
	近藤 尚己	京都大学大学院 医学研究科社会疫学分野	教授
	谷 友香子	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 国際健康推進医学	助教
	高杉 友	浜松医科大学健康社会医学講座	助教
	斉藤 雅茂	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	野口 泰司	国立長寿医療研究センター	流動研究員
	西垣 美穂	千葉大学 予防医学センター	特任研究員
	西田 恵	千葉大学 予防医学センター	客員研究員

5. 参加申し込み方法

ご参加希望の方は下記のURLよりJAGESのホームページにアクセスしていただき
登録フォームからお申し込みをお願いいたします。

【プレス発表会登録フォーム】 https://www.jages.net/about_jages/press/participation/

※2021年1月よりお申し込み方法を変更いたしました。

ご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

その他、お問合せ等はこちらで承ります <JAGES千葉事務局プレス係> press.ml@jages.net